

第6学年国語科学習指導案

- 1 単元名 表現を味わい，作者の思いを探ろう
教材名 「やまなし」宮沢賢治
教科書資料 「イーハトーヴの夢」 畑山博（光村図書 小学校6年下）

2 単元とその指導について

(1) 教材観

本教材は、かにの親子の目から見た小さな谷川に起こる出来事を描いた宮沢賢治の代表的な作品である。作品は、「五月」と「十二月」の二つの幻想世界が対比的に描かれていて、そこには「死」と「生」、「暗」と「明」が象徴的に表現されている。それは、自己（かわせみ）の「生」のために他者（魚）の「死」が存在し、他者（やまなし）の「死」によって自己（かに）の「生」があることの現実、つまり「生きること」の厳しさと希望や夢であろう。本教材は、川の底の様子や出来事を作者なりの描写で「幻灯」として表現したものであるということやそこに使われる造語などの独創的表現、擬態語・擬声語などから、作者自身の内面を映し出した作品として、作者を意識して作品を読むことに適した教材であると言える。

なお、宮沢賢治の作品については、5年生「注文の多い料理店」において作品を楽しみながら読むことや、影絵劇「よだかの星」などに触れている。それらの作品理解も前提にしなが、作品の持つメッセージを比較する学習も可能である。

(2) 児童観

本学級の児童は、本の読み聞かせは好んでおり、朝の読書タイムや家庭での親子読書に積極的に取り組んでいる。しかし、読書内容としては長い物語を読んでいる児童が多いとは言えず、読書への意欲も個人差が大きい。また、文章読解力についても学力テストの結果考察から、文や語句の意味は理解できていても、文章構成や前後の関係を考えながら読んだり全体の主題を考えて読んだりすることが十分に身に付いていないことが明らかになった。そこで、7月教材「ヒロシマのうた」では、自分が一番印象に残った文を抽出して作品の主題を考えたり、題名の意味について話し合ったりする学習をしてきた。少しずつではあるが、主題を読み取るようとする意識が育ちつつある。

なお、作者の生き方や考え方を理解ながら作品を読む学習は、本単元が初めてである。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、描かれている表現のよさを味わい、作者に関心を持ちながら作品を読む力を育てる。

そのためには、まず、児童の感想にあがるであろう造語「クラムボン」の意味、「イサド」へ行く目的、作品の題名「やまなし」の理由などから、作者の想像豊かな表現に触れさせていく。

その上で、比喻表現・擬人化表現や擬態語擬声語のもつ意味を考えながら、ことばを豊かに読む力をつける。教科書資料「イーハトーヴの夢」（畑山博）や「雨ニモマケズ」「注文の多い料理店」などの主題と比べてみることで、作者が作品に込めた思いを考えていく。

本時では、対比的に描かれている二つの幻想世界をかにの兄弟・親子の会話をきっかけにして、読み解いていく学習を展開する。類比と対比に着目させることで、作品世界を想像したり作者の考えに思いをめぐらすことの楽しさを味わわせたい。

単元の最後には、他の宮沢賢治作品についての紹介カードやブックレットを作ることで表現活動へ

と発展させていきたい。

現学習指導要領における「読むこと」(心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む)の指導から、新指導要領における「読むこと」(心情や場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる)を意識した指導をすることで、作品を解釈するだけでなく自分なりに評価する力を伸ばすことができるようにする。

(4) 言語活動について

ア 話し合い活動により理解を深める

読み手の想像に委ねられている語句、言葉のもつイメージ、題名読みなどを通して、作品への認識を広げ深めるための話し合い活動を行う。話し合うために自分の考えを整理する時間を確保することによって、自分の読みや立場を明確にし、話し合いを活発にしていける。ペア対話や少人数での話し合いを効果的に取り入れた指導を目指す。

イ 解説や資料を活用する

作者の思いをより理解するために、学習の適切な段階で教科書資料を活用したりインターネットを利用したりする(ホームページ「宮沢賢治の世界」「クラムボンの正体」等)。

ウ 作品の紹介を書く

作者の思いを伝えるための紹介カード(リーフレット)を作成する。自分が読んだ宮沢賢治の作品の中から、学校内の児童へ向けて紹介カード(リーフレット)を作成する。紹介したい作品を互いに紹介させることで、さらに作者や作品についての理解を深めさせたい。作者の考え方・生き方を知ることによって、物語を作品として読み、今後の読書生活にも広げられるようにしていく。

作成した紹介カード(リーフレット)は、相互に交流するだけでなく、おすすめの本の紹介や書評として図書室の掲示物にしたり校内放送を使って全校児童に紹介したりするなどして、学習の成果が校内で活用できるようにしていく。

3 単元の指導目標

- (1) 作品の情景を豊かに想像したり、表現を対比的に読んだりしながら、作品の特色や作者のものの見方や感じ方について考えることができるようにする。
- (2) 作者の思いを想像し、紹介カード(リーフレット)にすることで、目的を意識しながら条件に応じた表現を楽しむことができるようにする。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	ア 宮沢賢治とその作品に関心を持ち、いろいろな作品を読んでいる。 【「C 読むこと」 内容(1)ア】
話す・聞く能力	イ 知識や情報を関係付けながら話し合っている。 【「A 話すこと・聞くこと」 内容(1)ア イ】
書く能力	ウ 宮沢賢治の作品を読み、本の推薦文・紹介文・書評を基にブックレットを書いている。 【「B 書くこと」 内容(1)ア】
読む能力	エ 宮沢賢治の作品のよさや作者のものの見方を考えている。 【「C 読むこと」 内容(1)ウ】

5 単元計画（全 11 時間 本時 7 / 11）

時	主な学習活動	教師の指導・支援
1	「やまなし」を読んで、感想を交流する。	感じたことや不思議に思うことなどを交流し合う中で、作者についての関心を高めさせる。
2	音読の練習をし、言葉の意味を調べる。	新出漢字や難語句を調べ、音読の練習をする。教材文をすらすら読めるようになるまで練習してから、二次に入る。
3	「クラムボン」の意味を考える。	造語の意味を自由に想像することで、作者の豊かな想像力、発想や創造力を理解させる。
4	資料から作者の生き方や考え方を読み取る。	「イーハトーヴの夢」を読んで、作者の生き方や考え方をまとめさせる。
6	場面に描かれた比喻表現・擬人化表現や擬態語擬声語のもつ意味を想像する。	「五月」「十二月」を読み、描かれている情景を想像させることで、作者の表現力の豊かさを感じ取らせる。
7	二枚の幻灯のちがいを探し、作品のメッセージを考える。	会話文をきっかけに、類比と対比によって構成されていることを理解させながら、文章全体から対比する語句を探させる。対比されている「生と死」からの作者のメッセージを考えさせる。
8	他の作品に描かれている作者の理想や作品の主題について考える。	「やまなし」についての感想をまとめ、他の作品を選んで作品の主題について考えさせる。
9	作品と作者を関係付けた本のリーフレット(紹介文・推薦文)を書く。	インターネットの利用し、本の紹介文を書かせる。互いに吟味させる。
10		伝える相手を意識させ、文字数に制限を加えることで、条件に即して書きまとめる力を伸ばす。
11		

指導計画とは別に、できた本の紹介は図書室に掲示するか校内放送で紹介させるようにしたい。

6 本時の指導

- (1) 目 標 2枚の幻灯に描かれている世界を想像し，作品に込められたメッセージを探る。
- (2) 指導目標 五月，十二月に描かれている対比的表現を考えさせることで，作品に描かれた作者の思いを考えさせる。
- (3) 評価規準 類比や対比表現の隠喩に気付き，作品のメッセージである「生死」の厳しさや希望について考える。
- (4) 展 開 (7 / 11)

選	学習活動	指導・支援 *評価																								
導 入	2 これまでの学習を振り返り， 作品の感想を出し合う。	作品や作者について感じたことを自由に発言させる ことで，作者への関心を高めさせる。																								
	2枚の幻灯を比べて，作者のメッセージを探ろう。																									
展 開	2 蟹の兄弟・親子の会話文から 「五月」と「十二月」を対比する。	<p>兄弟の蟹を児童が，父親の蟹を担当が音読することで，会話文の書かれ方やその内容について似ているところや違うところに気付かせる。</p> <p>【似ているところ】 ・兄弟の会話に途中から父親が入ってくる 等</p> <p>【違っているところ】期待したい児童の反応</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>五月</th> <th>十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会話が怖い・意味不明 「死んだ」「殺された」</td> <td>他愛ない兄弟げんか 「あわ比べ」</td> </tr> <tr> <td>おかしなもの・かわせみ</td> <td>いいにおい・やまなし</td> </tr> <tr> <td>こわい所</td> <td>イサド</td> </tr> <tr> <td>こわいよ，お父さん</td> <td>おいしそうだね，お父さん</td> </tr> <tr> <td>暗い怖い世界</td> <td>優しい明るい世界</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童から出ない場合は，兄弟の蟹がそれぞれ月の最後に言った会話から「暗と明」のイメージをもたせていく。</p> <p>地の文から「暗と明」のイメージを隠喩している表現語句を探させる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>五月</th> <th>十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぎらぎらする鉄砲だま</td> <td>きらきらっと黄金のぶち</td> </tr> <tr> <td>コンパス</td> <td>丸い大きなもの</td> </tr> <tr> <td>黒くとがる</td> <td>円いかげ</td> </tr> <tr> <td>こわい所</td> <td>おいしいお酒</td> </tr> <tr> <td>「死」・不安</td> <td>「生」・期待</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 「暗と明」のイメージを隠喩している表現語句を見つけ，それらのもつ意味を考えることができる。</p>	五月	十二月	会話が怖い・意味不明 「死んだ」「殺された」	他愛ない兄弟げんか 「あわ比べ」	おかしなもの・かわせみ	いいにおい・やまなし	こわい所	イサド	こわいよ，お父さん	おいしそうだね，お父さん	暗い怖い世界	優しい明るい世界	五月	十二月	ぎらぎらする鉄砲だま	きらきらっと黄金のぶち	コンパス	丸い大きなもの	黒くとがる	円いかげ	こわい所	おいしいお酒	「死」・不安	「生」・期待
五月	十二月																									
会話が怖い・意味不明 「死んだ」「殺された」	他愛ない兄弟げんか 「あわ比べ」																									
おかしなもの・かわせみ	いいにおい・やまなし																									
こわい所	イサド																									
こわいよ，お父さん	おいしそうだね，お父さん																									
暗い怖い世界	優しい明るい世界																									
五月	十二月																									
ぎらぎらする鉄砲だま	きらきらっと黄金のぶち																									
コンパス	丸い大きなもの																									
黒くとがる	円いかげ																									
こわい所	おいしいお酒																									
「死」・不安	「生」・期待																									
	3 会話以外の表現で対比的に 描かれているものを探す。																									
	【対話】 ペア対話 少人数の話し合い																									

終末	<p>4 「明暗」が何を表しているか考える。</p> <div data-bbox="320 353 639 483" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【対話】 全体での話し合い</p> </div> <p>5 作者のメッセージを探る。</p>	<p>「五月」と「十二月」を対比することによって見えてくる世界を整理する。</p> <table border="1" data-bbox="743 315 1326 488" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>五月</th> <th>十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>死</td> <td>生</td> </tr> <tr> <td>不安</td> <td>期待</td> </tr> <tr> <td>悲しみ</td> <td>喜び</td> </tr> </tbody> </table> <p>なぜ、このように対比させて描かれているのかを考えさせることで、作者のメッセージについて考えさせる。</p> <p>これまで学習した内容について想起させ、以下のような点からも、作者のメッセージを読み取らせたい。</p> <p>資料「イーハトーヴの夢」より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来に希望をもつ... ・互いに優しい心が通い合う ・一本の木にも身を切られるときの痛みとか、... いかりとか...あるにちがいない <p>人間も動物も植物も、互いに心が通う合う世界を理想としていた作者のことを想起させ、「生と死」の存在・必要性・自然の摂理を受け入れながら生きることの大切さを訴えていることをまとめとしたい。</p> <p>振り返って感想や学びをまとめる。</p>	五月	十二月	死	生	不安	期待	悲しみ	喜び
	五月	十二月								
死	生									
不安	期待									
悲しみ	喜び									
<p>6 今日の学習を振り返る。</p>	<p>振り返って感想や学びをまとめる。</p>									